

令和三年度 通信制後期卒業式 式辞

眼下に広がる瀬戸内の海が輝きを増し、我が学園の丘に流れ込む海風にも、確かな春の訪れを感じる今日の佳き日、摩嶋教育後援会長様を始め、保護者の皆様のご列席を賜り、令和三年度聖光高等学校通信制課程卒業証書授与式を、目出度く挙行できますことは、この上ない喜びであります。

只今、卒業証書を授与いたしました二十八名の皆さん、卒業おめでとう。ご家族の皆様には、今日の晴れ姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。これまで支え育んでこられたご労苦に敬意を表し、心からお慶びを申し上げます。

顧みますと、卒業生の皆さんの通信制への入学動機は様々で、年齢や在籍年月にも違いがあり、今日まで、決して平坦ではない道のりを、辛抱強く学び続けてきました。併せて、皆さんの高校生活は、新型コロナウイルス感染症と関わり続けた日々でもありました。スクーリングや行事が中止や変更になるなど不自由な思いをさせましたし、日々の生活でもたくさん我慢を強いられました。

そうした厳しい環境で手にした卒業証書は、皆さんのためまぬ努力と精進の証であります。卒業という目標を達成した誇りと自信を胸に刻むとともに、これまで皆さんを慈しみ育んでこられたご家族の愛情、励まし導いてくださった先生方のご指導に、感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。

さて、皆さんが歩み出す社会は、人口減少、少子高齢化、高度情報化、グローバル化、地球環境保全など、様々な取り組むべき課題を抱え、先行きが不透明で変化の激しい時代にあります。ここ数年は、かつて経験したことのない自然災害や感染症のパンデミックに見舞われています。予想もしなかった環境の変化や将来への不安が突然として目の前に現れるのです。けれども私達は、生きていく時代を選ぶことはできません。決して平穩無事とは言えないであろう未来への道を、一人ひとりの夢や希望を見失わないように、その時代とともに精一杯生きていかなければならないのです。

そんな時代に旅立つ皆さんに、山口県が生んだ童謡詩人、金子みすゞの作品「明るい方へ」を紹介します。

明るい方へ 明るい方へ。一つの葉でも陽の洩るところへ。藪かげの草は。

明るい方へ 明るい方へ。翅は焦げよと灯のあるところへ。夜飛ぶ虫は。

明るい方へ 明るい方へ。一分もひろく日の射すところへ。都会に住む子等は。

草も虫も人も、明るい方へ光を求めて生きていきます。そんな当たり前のことが詩にされていますが、人生の闇を知りぬいたみすゞさんが、明るい方へ明るい方へと私達を導こうとしてくれているように感じます。

その明るい方とは、心を明るくさせるプラス思考の考え方、心にある夢や願いに向かって進む考え方のことであろうと思います。そして、明るい方を向いたら、歩み出すための力が必要です。元プロ野球選手の上原浩治さんは、「雑草魂」という言葉を座右の銘としていました。不遇な環境でも逞しく育つ雑草に人間を喩えた言葉です。皆さんも、困難を乗り越えて卒業証書を手にした喜びと自信を原動力にして、未来に向かって歩み出して欲しいと思います。

これまで何度か皆さんに伝えてきた「あせらず、やすまず、あきらめず」という全国通信制高校の合言葉を覚えていきますか。不安定で不確実な時代に立ちはだかる試練は、見方を変えれば、自分に与えられた飛躍のチャンスであるとポジティブに捉えることもできます。明るい希望の光の射す方向に、小さな歩幅でもいいから勇気を出して踏み出し、「あせらず、やすまず、あきらめず」前に進んでください。

卒業生の皆さん、名残は尽きませんが、お別れの時が近づいています。大学や専門学校などに進学する人、現在の仕事を継続する人、家庭で改めて生活を立て直す人など、進む道は様々ですが、日本の未来は皆さん若者に託されています。高等学校の卒業証書を手にした今、社会の一員として、それぞれの役割をしっかりと担い、平和で豊かな社会の構築に貢献されることを願わずにはいられません。

結びに、我が聖光高校は、皆さんの心のふるさとです。卒業後も機会があれば母校を訪ね、立派に成長した姿を見せてください。檀蔭の仲間たちの人生の旅路に心からエールを送り、幸多きことを祈って、私の式辞いたします。

令和四年三月五日

学校法人檀蔭学園 聖光高等学校長 廣川 晋

祝 辞

三月を迎え、ようやく冬の寒さもやわらぎ、窓の外の景色もやわらかな春を感じる陽気となりました。ご卒業される二十八名のみなさん、本日はおめでとうございませす。また、保護者のみな様方におかれましても、今日のお子様のお晴れ姿を見られて感無量のことと拝察し、心からお祝い申し上げます。

教育後援会を代表して、一言ごあいさつさせていただきます。

本日も卒業されるみなさん、卒業までの道のりはいかがでしたか。コロナウイルス感染症の蔓延が続いた今年も、新しい生活様式が求められました。そのような中、自らの努力で卒業証書を手にすることができた自分自身をしっかりと褒めてください。

また、自分一人の力だけでなく、常に心温かく見守ってくださったご家族や先生方のご指導のたまものであることも忘れないうください。

みなさんは、これからそれぞれが自分の道を歩んでゆかれることと思います。人生に近道はありません。苦勞することも、人生の勉強だと思えます。

また、週一回のスクーリングではありましたが、この学校で学んだことも、少なくないはずす。何事も最後まで諦めず、卒業という一つの節目を迎えられたことに感謝しましょう。

そして、新しい節目に向かって、また新たな一歩を踏み出しましょう。ひとつひとつの歩みが皆さんの成長につながっていきます。頑張ってください。

最後になりますが、理事長先生や校長先生をはじめ今日まで熱心にご指導くださった教職員の先生方に厚くお礼申し上げます。また、保護者のみな様方には、これまでの教育後援会活動へのご理解とご協力をいただきましたことに感謝いたしますとともに、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

聖光高等学校通信制課程のますますのご発展と卒業生のみなさんの今後のご活躍を祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

令和四年 三月五日

教育後援会 会長 摩 嶋 由香里